

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
1	1	いつでもどこでもできるストレスフリーな行政手続きの実現	オンラインによるリモート申請や電子申請は、遠隔地に住む市民の方々や子育て中の女性など家庭内にとどまらざるを得ない人々にとって、重要だと思えます。ただ、本人確認をマイナンバーカードですとしても、いくつか課題はありそうです。 姫路市の令和4年の街づくりに関する市民意識調査の結果のデータの分析からは、回答者属性によって「行政手続きの電子化など電子市役所の推進」などに関して、かなり回答傾向が異なるようです。市役所本所から遠隔地にお住まいの市民では、不満とする比率が高い、といった結果があるようです。このあたり次回の市民意識調査で調査項目に含めることを検討されてはいかがでしょうか。	いただいたコメントのとおりリモート申請や電子申請の利用促進のため、分かりやすく易しい本人確認方法が必要と考えています。 また、当市でも毎年市民意識調査を実施しており、調査結果をオープンデータとして公開しております。 当該調査では、「行政の効率化」に関する重要度と満足度を調査しており、「お住まいの地域」もあわせて調査しています。 引き続き実態の把握に努めていきたいと思えます。	アイデアの一例 追加 分かりやすくやさしい本人確認方法の導入
1	3	欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 スマートシティという言葉はまだ広く浸透していないように感じる。 令和4年度の市民意識調査によれば、情報収集の主要な手段は広報紙となっている。 総務省の調査では、スマートフォン等のデジタルツールを所有している人が90%を超えており、デジタルツールを活かした情報発信を期待している。	スマートシティという言葉の認知度は、令和4年度の市民意識調査では7.4%となっています。見守りカメラや見守りサービスなどのスマートシティの具体的な取組を認知いただくことで、デジタル技術を活用して地域の課題を解決するスマートシティを実感していただけるように取り組みます。 また、現状の市政情報収集の主要な手段である「広報かこがわ」に加え、スマートフォン等のデジタルツールを所有している人が増えていることから、各媒体の特徴を踏まえた適切な情報発信に努めてまいります。	
1	4	安心して子育てをできるまちづくり	このページを拝見して、そういえば子育て世代の市民が利用できるアプリや情報発信プラットフォームがあったかと思い、加古川アプリを開いたところ、「かこたんナビ」があることに気がしました。しかし、それと同時に本アプリの運用が12月に終了するということも知りました。もちろんこのアプリの存在に気づいていなかった自分が悪いのですが、もっと早くに知っていれば活用したろうにと悔やまれました。 上に書かれているアイデアや取り組みを見るに、このアプリの機能や役割を敷衍させて実現されそうなものもあるように思えるのですが、どうして運用終了してしまうのでしょうか。	かこたんナビの終了につきましては、契約期間が満了するにあたり、ユーザー数の規模、他のツールによる代替手段があることなどを総合的に勘案した結果、運用を終了することとしました。 市の子育て情報発信につきましては、市公式LINEや市公式インスタグラム（かこがわ子育てネット）の充実を図ってきたほか、市子育てサイトも継続して実施する予定としています。	
1	4	安心して子育てをできるまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 子育てというと、子どもが幼い時期に焦点が当たりがちだが、大学を卒業して巣立つまで、もう少し幅を持たせて子育てを捉え支援を考えてはどうか。	加古川市スマートシティ構想では、デジタル技術を活用して市民の皆さんとともに市のさまざまな課題を解決することを目指しています。そのため、本構想に記載するアイデア等についても、デジタル技術の導入を手段としたものとしています。 なお、デジタル技術を活用した取り組みを実施するにあたっては、次の考え方で取り組んでまいります。 令和5年12月にこども家庭庁より示されたこども大綱において、青年期では「高等教育の修学支援、高等教育の充実」、「就労支援、雇用と経済的基盤の安定のための取組」、「結婚を希望する方への支援、結婚に伴う新生活への支援」、「悩みや不安を抱える若者やその家族に対する相談体制の充実」が記載されております。これらの国の動きを注視し、自治体レベルで有効な施策を検討してまいりたいと考えております。	
1	4	安心して子育てをできるまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 子育て中の親は非常に忙しく、情報を取得する余裕がないため、サポートする周りの人たちに情報を届け、協力しやすくなるような社会環境が必要。	「1-3. 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信」に掲げるアイデア例のうち、「さまざまな年代に対応した情報発信ツールの活用」のなかで反映してまいります。	

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
1	5	高齢者にやさしいまちづくり	加古川市には比較的多くの図書館がありますが、免許を返納した高齢者にとっては遠すぎて利用できないことが多いと思われます。 高砂市のように、図書館の予約システムで予約した図書を近くの公民館で受取／返却できる仕組みを導入できないでしょうか。 図書館は無理でも、公民館なら車なしで利用できる方が多いはずです。 【返信】 高砂市では予約システムで予約した図書を近くの公民館で受取／返却ができるんですね☺ https://takasago-lib.jp/servicepoint 図書に限らず、移動しなくても、物が近くに運ばれてくる仕組みがあればより便利になりそうですね。	加古川市には4つの図書館施設がありますが、図書館から遠かったり、公共交通の点からも利用しにくい地域があることは認識しており、図書館を少しでも利用しやすくするために、令和6年4月からはサービスポイントとして「両荘みらい学園学校図書館」で市内4図書館（室）の予約図書の貸出返却等をできるようにします。（返却については、従来よりJR加古川駅構内の「まち案内所」で受付しています。） また、来館困難者が自宅で読書を楽しめるよう電子図書館サービスの充実を図るとともに、「両荘みらい学園学校図書館」の状況をみながら、今後のサービスポイントの運用について検討していく予定です。	
1	5	高齢者にやさしいまちづくり	加古川市では、私見になりますが見守りカメラの設置密度はかなり高密度で設置されているとおもいますが、それだけで全市域をカバーできません。『かこがわアプリ』はお持ちのスマートフォンをBLEタグの検知器にできます。 官がすべての費用負担するのではなく、市民の側でも負担の少ない形でのボランティア活動ができると思います。そのためにも、この側面を強調しながらスマホ講座などのかこがわアプリのインストールなどを推進されてはいいかが、と思います。せっかくの『かこがわアプリ』ですから。	加古川市では、「かこがわアプリ」のほか、BLEタグの検知機能のみに絞りに加古川市以外の自治体でも利用できる「見守りアプリ」を構築し、令和6年1月22日から実証実験を実施しています。 近隣自治体と協力し、見守りサービスの広域展開。 スマホ講座での紹介など、アプリの利用者を増やすための情報発信に努めます。	
1	5	高齢者にやさしいまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 高齢者はスマートフォンが苦手と言われているかもしれませんが、スマホ講座などを通じて、活用する人もいます。きっかけや成功体験を提供することが重要と考える。	職員が地域へ出向いてお話しする職員出前サービスとして、「みんなが使えるスマホ講座」を引き続き実施します。 また、スマホ講座のテキストをDecidimで公開しています。 ※職員出前サービス https://www.city.kakogawa.lg.jp/shiseijoho/kakogawashinoseisakuzaisei/sonotakeikakutorikumi/demae.html ※スマホ講座のテキスト https://kakogawa.diycities.jp/processes/smartphone	
1	5	高齢者にやさしいまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 高齢化が進む中で、手続き自体が困難な高齢者が増えてくると考えられる。 そのため、行政手続きの代行や簡略化、地域コミュニティ等の支援も重要である。	「書かない窓口」をはじめ、市民にやさしく職員の負担軽減にもつながる手続きを進めていきます。 また、地域コミュニティの支援としては、町内会・自治会を対象とした行政手続（申請関係）を集約したホームページを作成し、可能なものは電子メールやオンライン申請等により負担軽減を図っています。引き続き、手続の簡素化の検討を進めていきます。	アイデアの一例 追加 市民にやさしく職員の負担軽減にもつながる手続きの実現
1	6	デジタル教育の推進	インフルエンザなどの流行で学級閉鎖になり、自宅で過ごしておりました。 1人1台端末を持ち帰っていなかったため、利用できていませんでした。 学校に通えなかったとしても、元気な児童生徒だけでもオンラインで会えるようにするなど、良い仕組み、良い環境をうまく活用していく方法を考えていくことも今後は必要ではないでしょうか。	オンライン授業の現状として、テレビ会議システムを利用した朝会や集会、他校との交流学習などが行われております。また、授業支援システムを活用して子どもたちの意見や考えを瞬時に集約し、情報共有を行いながら授業を行っている学級も増えております。教育委員会からは各学校に1人1台端末を活用したオンライン授業のモデルを提示しており、今後も緊急時等に対応できるように情報を発信してまいります。	
1	6	デジタル教育の推進	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 BAN-BANネットワークス株式会社が提供する通信回線を利用しているが、活用の余地はまだあると感じている。学校だけでなく、家庭の中でも有効活用できる工夫をしていただきたい。	端末の家庭での利用としてデジタルドリルによる課題配信や毎日の連絡、欠席児童生徒への学習支援、教科ごとの課題、調べ学習など様々な活用が考えられ、さらに有効活用できるように小・中学校へ情報を発信してまいります。	
1	6	デジタル教育の推進	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 プログラミング教育は大事だが、教師への負担が心配。民間雇用の活用も視野に入れて検討が必要と考える。 デジタル化を通じて教育の仕事を簡素化させることも考えないといけない。	プログラミング教育については、小学校学習指導要領に、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を実施することあり、各学校では年間計画を立て、各教科等の特質に応じて体験的に取り組んでいます。 市としては、民間雇用による実施ではなく、教育研究所からプログラミング教育用の教材の貸出提供を行い、先生方の授業のサポートを行っております。 また、教員の業務の効率化については、中学校に自動採点システムを導入し、業務の改善を進めております。教育分野でのデジタル化は日々進歩していますので、その進捗に注目し、今後も教員の働き方改革につながる取組を図ってまいります。	

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
1	6	デジタル教育の推進	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 コロナ禍を経て、GIGAスクールのインフラはすでに整備されており、その上でどう活用していくかが課題と言える。近隣自治体の状況を知ることが大事。複数のプレイヤーと連携・協力して学びを得るのが良い。例えば、高校生が探究の授業の中で高齢者のフレイル予防に取り組むことで、異なる世代間の交流が生まれ、高校生の学びにもつながると考えている。 スマートシティに取り組む加古川市の先進的なイメージは引き続き大事にして取り組んでほしい。	小・中学校において、自分とは異なる価値観をもつ人々と情報を共有したり対話したりしながら、クラスメイトだけでなく、テレビ会議システムを利用し、海外や他校の子どもたちとやり取りを行うなど、様々な交流が行われてきております。	
1	6	デジタル教育の推進	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 AI型学習ドリルに関連して、教育現場で生成AIの活用を書いてはどうか。また、生成AIの登場により、人間ならではの能力を伸ばすことに焦点を当てるなど、教育の分野でポジティブに変化を取り入れることが必要と考える。	社会に急速に普及しつつある現状から、国のガイドラインを踏まえながら小・中学校においての生成AIの在り方について検討していきます。 生成AIを利用する上で年齢制限等の規約から子どもの活用は難しい状況です。しかし、教師が生成AIを使いながら、生成AIの回答を鵜呑みにしないことや個人情報等の取り扱いなど、情報モラルについて子どもに教えることは必要があると考えております。	
1	7	行政情報の見える化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 オープンデータをAPIで提供することで、大学生や民間事業者、ハッカソンなどがそれを活用でき、データの利活用につながる。 ぜひ、オープンデータのAPI提供を促進してほしい。	市ホームページでAPI提供手順を公開しており、さらなるデータ利活用の推進方法を検討します。 ※API提供手順「オープンデータ（API）を活用する開発者の方へ」 https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/opendata/1528499081092.html ※「オープンデータの活用事例」 https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/opendata/1528499230133.html	
1	7	行政情報の見える化	以下のデータのオープンデータ化を希望します。 *ごみの分別データ、ごみステーションの位置データ * 資産税課が持っている航空写真（滋賀県草津市は公開済み） * 地番参考図、家屋のデータ * 消火栓&消防ホースの位置 * 町内会の公会堂の位置 * 投票所と立候補者の掲示板の位置	市が保有する情報をデータの利活用の範囲や対象を明らかにし、オープンデータを推進することで、大学や民間企業等がオープンデータを活用して仕組みを開発し、市民の利便性向上や、データ流通促進による地域の活性化につなげることが期待できるため、引き続きオープンデータの提供範囲の拡大を検討してまいります。	
1	7	行政情報の見える化	引越しをしたときに、子どもが遊ぶことができる公園がどこにあるのか知りたかったです。 生活するなかで必要な情報が見える化されているとありがたいです。	公園の情報など、子育て中の方など皆さんが知りたい情報をわかりやすく伝えることで利便性の向上に努めてまいります。	

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
2	1	快適に移動できるまち	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 スマートシティ＝デジタルの必要はない。人がスマートに過ごせることがスマートシティと思う。 移動について、ソフト面とハード面を組み合わせる取り組みが重要と考える。例えば、スペイン国バルセロナは、歩道が広く、数多くベンチが配置され、高齢者や足に障害のある人にやさしく、公共交通機関を可視化することで、安心して移動できるまちづくりを実施している。 また、災害時に自治体から迅速に情報を届けるために、普段から見てもらえるポータルサイトや情報提供の方法を整備することが重要と考える。	いただいたコメントのとおりデジタル技術はあくまでも手段としてとらえ、ソフトだけでなくハードと組み合わせも意識し、市民生活の質を高め、市民満足度向上に取り組めます。	
2	1	快適に移動できるまち	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 「オンデマンド交通」「グリーンスローモビリティ」などの用語が用いられているが、広く一般の人々が使用している言葉かどうか、読み手を意識した検討してほしい。	「2-①快適に移動できるまち」に掲げる「基本目標を実現するためのアイデア一例」について 「オンデマンド交通の整備（乗り合いタクシーの予約サービス等）」を「乗り合いタクシーの予約サービス等（オンデマンド交通）の整備」に改めます。 「グリーンスローモビリティの導入」を「環境にやさしい低速の小さな移動サービス（グリーンスローモビリティ）の導入」に改めます。	文言を修正
2	2	安全安心のまちづくり	現状の不審者マップですが、個別の事案が表示されるだけで、どのような地域で不審者が多いのか、どのような時間帯に不審者が多いのか、ということがいまひとつわかりにくいと思います。 町丁目などで集約して公表すると差しさわりのあるかもしれませんので、250mメッシュないし、500mメッシュで時間帯別に集約して公表したほうが、この時間帯はこの地域は避けたほうがよいといった、プロアクティブな犯罪発生回避行動行為・安全確保行動につなげられるのではないのでしょうか。	防犯意識の向上につながるメッシュや時間帯別の可視化について引き続き検討します。	
2	2	安全安心のまちづくり	交通事故に関して、加古川市内での事故事例をマップ化したりしてみたのですが、数の上では加古川バイパスや250号線とその側道や流入道路付近での事故が圧倒的に多いという側面があります。 もちろん、いわゆる裏道・抜け道と呼ばれる道路でも交通事故が発生していますが現状で高度化見守りカメラ（AI搭載カメラ）はJR加古川駅西側 JR東加古川 山陽電鉄浜の宮駅・別府・尾上の松駅周辺等に設置が限られており交通事故防止には直接的につながらないのでは、という印象があります。犯罪は防犯カメラにある抑止効果があるのは理解できますが、交通事故防止に防犯カメラというのは少し疑問が残ります。	高度化見守りカメラ（150台）には、交通事故の未然防止のため、異常音（悲鳴や怒声）や車両接近を検知し、歩行者にスピーカーと回転灯で注意を促す機能があります。 また、高度化見守りカメラのうち50台には人流を測定する機能があり、今後のまちづくりの検討に活用しています。 引き続き「アイデア一例」に掲げているとおり、「交通事故多発エリアを可視化」するなど、意識啓発する取組についても調査研究していきます。	
2	2	安全安心のまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 見守りカメラの導入が刑法犯認知件数の半減に寄与していることは、ご存知でない方が多いと感じる。成果や効果を広く周知していただきたい。	引き続き「広報かがわ」や市公式SNSをはじめ、様々な機会をとらえて情報発信に努めます。	
2	3	災害に強いまちづくり	SNSを介した市民による災害情報の発信などは、アメリカの空間情報学者 Goodchildが2000年代に主張しているところで、その情報収集は、有効な手段だと思います。また、災害・事故に関するSNS情報の収集は、東京都でも取り組みをなさっていることを先日、研究会でお聞きしました。 ただし、SNS情報の場合、いわゆるフェイクニュースを含む場合もあるので、SNSからの情報収集する際には、SNSの情報からフェイクニュースを除くような工夫をされておられるようです。その辺をうまく使って、効果的な防災対策につながるとうよいと思います。	令和5年度に、技術実証として（株）JX通信社と「共助の仕組みによる災害情報等の充実」を実施しました。 （株）JX通信社が提供するアプリは、SNSに投稿された災害情報をAIや専門スタッフがチェックし、デマ情報などが排除された状態で、地図で確認できるものとなります。 効果的な防災対策について引き続き調査研究していきます。 詳しくは、こちらをご覧ください。 https://kakogawa.diycities.jp/assemblies/digital-poc/f/1110/proposals/1463	
2	3	災害に強いまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 SNSでも災害情報が発信されているが、情報が正しいか見極めるのは当事者にとって難しい。日常から目にするサイトを育てることが大事と考える。	新たに開設した加古川市防災ポータルについて市民への周知と日常的な利用を促進します。	

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
2	3	災害に強いまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 災害に強い街とは何を指すか、スマートシティと災害の関連性がわかりにくいと感じる。	災害の状況によっては、罹災時に十分な人員が確保できない可能性が考えられることから、デジタル技術を活用することで、効果的かつ効率的な災害対応につなげることを意図しています。なお、防災情報を集約したポータルサイト等、情報伝達手段の充実に取り組んでいます。 ※加古川市防災ポータル https://www.kakogawa-bousai.jp/bosaiWebPublic/#TOP	
2	4	にぎわいのあるまちづくり	★市街化調整区域を無指定区域に見直す事を提言します。 私は八幡町中西条に住んでいます。 若者が都市へ出て行き、衰退一方の調整区域ににぎわいを取り戻すため、最も足かせとなっている都市計画法、農業振興地域（20年でフリーが50年経ってもフリーにならない）のタガを外さなければなりません。 田園まちづくりもありますが、住宅区域が定められた上に、新規居住者の過去のピーク時人口が上限と決められ、悪影響となっています。 村が存続するためには地縁者、血縁者だけでなく、新規居住者と働き口となる産業を迎える事が必要だと考えます。 不作為体質の行政には悪弊をブツ壊す勇気を期待したいです。	ご意見をいただきありがとうございます。 加古川市スマートシティ構想では、デジタル技術を活用して市民の皆さんとともに市のさまざまな課題を解決することを目指しています。そのため、本構想に記載するアイデア等についても、デジタル技術の導入を手段としたものとしています。 なお、方向性は、次のとおりです。 区域区分については、兵庫県が決定する都市計画であり、社会経済情勢の変更を踏まえ、概ね5年毎に見直しを行っています。 次回の見直しは令和7年度末を予定しており、現在兵庫県において検討が進められていますが、原則区域区分を設定する方針が示されています。 しかし、人口減少や少子高齢化が著しい市街化調整区域では、地域コミュニティの維持や活性化などの課題を抱えていることから、田園まちづくり制度の指定や見直しなど、柔軟な運用に努めています。 なお、田園まちづくり制度における「新規居住者の住宅区域」の指定にかかる規模の上限は、現在、要件を緩和しており、相当数の居住者を受け入れることができることとしています。	
2	4	にぎわいのあるまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 「まち」に関しては長い時間軸で考える必要がある。快適な移動や、安全・安心など「まち」に関わる5つの施策を網羅する具体的なエリアで見える形を作り、徐々に範囲を広げることで市民にとって分かりやすいものになる。 にぎわいという観点では、収益を上げ持続することが大事だが、空き家空き店舗の活用について、他地域の成功事例を移転しようとしても、耐震化費用や法令上の制限で上手くいかないことがある。 コンパクトシティの視点で、どのようにデジタル技術を活用してまちづくりをすすめるか、スマートシティ構想に記載しても良いと思う。	立地適正化計画など、まちづくりに関する計画との整合を図りながら関係課とも必要に応じて連携したまちづくりを進めていきます。 また、センシングデータを活用するなどのエビデンスに基づく効率的なまちづくりを進めます。	アイデアの一例 追加 センシングデータを活用するなどのエビデンスに基づく効率的なまちづくり
2	4	にぎわいのあるまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 スマートシティの取り組みとして、課題に対処することも重要だが、加古川市の強みを活かすことで、オリジナリティ豊かなスマートシティを築くことができると思う。	現在取り組んでいる「加古川市ならではの魅力づくり」の中にデジタル技術の活用も意識して取り組みます。	
2	4	にぎわいのあるまちづくり	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 「かわまちづくり」は加古川市の特徴が出ており、Youtuberが紹介したことで注目を集めている。地域の特徴にデジタルを組み込んでいくことで、より魅力的なまちづくりが可能と考える。		

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
3	1	情報のデータ化によるスムーズな窓口対応	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 高齢者が増える中、行政手続きのデジタル化が全ての人にマッチし、豊かさや利便性につながるか考えないといけない。 アナログ手法も大事にすることで、市民の豊かさにつながるという視点でサービスを検討してほしい。	スマートフォンの世帯保有率は90%を超えており、身近な機器となっている一方で、まだ慣れていない方もいらっしゃいます。 行政手続きのデジタル化を引き続き推進することで、職員の業務負担を軽減し、スマートフォンに慣れていない方などに対しては、丁寧に対応することで、利便性の高い窓口を目指していきます。 また、スマートフォンの使用方法を学びたい方に対しては、職員出前講座を開催しています。	
3	1	情報のデータ化によるスムーズな窓口対応	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 スマートフォン等のデジタル機器がないと行政サービスの恩恵を受けられない状況を避けるために、アナログな窓口や方法の必要性を感じる。 3年から5年の短期間でのアナログの完全排除は危険性が高い。		
3	1	情報のデータ化によるスムーズな窓口対応	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 スムーズな窓口対応はできるだけ早く実現してほしいが、全てをデジタル化することによってフォローできなくなるケースが出てくることも考慮する必要がある。 例えば、大学生が高齢者のデジタル申請をサポートするような取りこぼさないことも大事である。		
3	1	情報のデータ化によるスムーズな窓口対応	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 行政の視点では、一気にデジタル化を進展させなければならない場面もある。特に、職員不足は多くの市町が抱えている共通の課題であり、アナログの選択肢を残すことが難しいケースも考えられる。		
3	1	情報のデータ化によるスムーズな窓口対応	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 行政のデジタル化を推進する際は、ある程度の時間と住民をサポートする仕組みを構築したうえで、移行することが必要と考える。		
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	紙データの電子化は重要だと思います。オンサイトだけでなく、クラウド化において、機密情報と非機密情報とに分けておいて、非機密情報に該当しないものは、インデックスを付与して、探索しやすくするとともに、市民側が検索可能になれば、ほしい情報がすぐにわかる、ということの実現にもつながるような印象があります。	紙データなど整理整頓を行い、業務フロー等を再検討するなかで、罹災時の対応など職員の業務負担を軽減することで、市民の利便性の高い必要とされている情報把握ができる仕組みづくりが必要ではないかと考えています。	
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 アイデアの一例 「生成AIに関するリテラシー（信頼できない等）を習得し、人間中心を意識した利活用」という表現がわかりにくいと感じる。	「生成AIの特性（倫理的判断力を持ち合わせていない）を理解した効果的な利活用」に改めます。	文言を修正
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 アイデアの一例 「サーバーの集中管理」とはどういう意味か。わかりやすい表現にしてほしい。	「サーバーの集中管理」を「サーバ統合によるコスト削減と安定した運用」に改めます。	文言を修正
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 生成AIの活用に関しては、具体的な業務利用と同時に人材育成の観点からも、デジタルが代わることができない能力（クリエイティブな力やコミュニケーション力）を伸ばすことも重要。	「3-5. スマートシティを推進する人材の育成」に掲げる「アイデアの一例」に「生成AIの活用などのデジタル技術の活用にあたっては人間に代わることができないクリエイティブな力やコミュニケーション力を育成する」を追加します。	アイデアの一例 追加 生成AIの活用などのデジタル技術の活用にあたっては人間に代わることができないクリエイティブな力やコミュニケーション力の育成する
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 生成AIはプログラミングを自然言語で行うことができるようになり、ノーコードツールよりもさらに便利になり、使いこなしてもらいたい。 加古川市の市民向けのナレッジベースと生成AIを組み合わせることで、効果的な情報提供の仕組みを構築することができ、市民からの問い合わせに対応することもできると考えている。	「1-3. 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信」に掲げる「アイデアの一例」のうち「AIチャットボットの導入」を実現するなかで、生成AIの活用方法を検討し、市民サービスの向上に努めます。	

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 行政DXで事務を効率化した結果、生まれた時間をどう活かすかが重要である。 例えば、施策を検討する際に市民や関係者の意見を聞くこと等に時間を使うことが挙げられる。	総務省が進めている「フロントヤード改革」を推進していく中で、職員の業務負担を軽減し、施策を検討する際の市民や関係者と対話する等（窓口対応、相談、オープンミーティング、ワークショップ等）に時間を使えるように取り組んでいきます。 総務省動画チャンネル https://www.youtube.com/watch?v=QONC0oap00U	
3	2	最新技術による徹底した業務効率化	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 行政のDXに関し、加古川市は進んでいるイメージがある。これを全体の動きとしていくには、組織としてDX推進を意識してもらいたい。 紙による手続きを残すことも大事だが、手続きそのものを簡単にすることも考えてもらいたい。	令和6年1月にDX人材育成基本方針を策定し、組織としてDXを推進していくこととしています。 市民の利便性向上、職員の業務負担軽減の観点から、効率的かつ効果的な方法で課題解決に取り組みます。	
3	3	どんな時も業務継続を可能とする体制づくり	まだまだ通常の会議でWEB会議が開催できる仕組みが整っていないように思います。 WEB面談や市役所を訪問しなくてもオンラインで相談ができる仕組みを拡充してほしいと考えています。	「基本目標を実現するためのアイデア例」に掲げる「Web会議の導入推進」のなかで、引き続きテクノロジーを活用したどんな時も相談や面談を含めた業務継続が可能な仕組みについても検討してまいります。	
3	4	多様なデータの利活用による新たな行政サービスの実現	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 データに基づいた判断・アクションすることが重要と考える。例えば、自家用車の所有傾向や高齢者の免許返納動向などのデータを可視化することで、インフラ整備等の必要性を示すことで、データに基づいた判断で施策を進めることができる。 加古川市はデータ連携基盤の知見を活かしてEBPM（証拠に基づく政策）を組織全体にどう波及させるかという視点が重要と考える。 神戸市が積極的に取り組んでいる分野のため、連携し進展させていくと良い。	EBPMを積極的に推進している自治体とも連携し、データや証拠に基づいて施策を判断できるよう取組めます。また、データを利活用できる人材を育成し、データ連携基盤の効果的な活用にも取り組めます。	
3	4	多様なデータの利活用による新たな行政サービスの実現	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 デジタル人材の育成については、行政だけでなく民間の力を積極的に取り入れることも重要と考える。	民間企業とも連携したデジタル人材の育成について、引き続き取り組めます。 例： 一般社団法人コード・フォー・ジャパンと「加古川市におけるスマートシティの推進に関する協定」を締結 https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/ict/29515.html	
3	5	スマートシティを推進する人材の育成	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 「スマートシティアーキテクトの育成」から「スマートシティを推進する人材の育成」への文言の変更は、適切。	返信不要	
3	5	スマートシティを推進する人材の育成	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 生成AIの活用に関しては、具体的な業務利用と同時に人材育成の観点からも、デジタルが代わることができない能力（クリエイティブな力やコミュニケーション力）を伸ばすことも重要。	「3-5. スマートシティを推進する人材の育成」に掲げる「アイデアの一例」に「生成AIの活用などのデジタル技術の活用にあたっては人間に代わることができないクリエイティブな力やコミュニケーション力を育成する」を追加します。	アイデアの一例 追加 生成AIの活用などのデジタル技術の活用にあたっては人間に代わることができないクリエイティブな力やコミュニケーション力の育成する
3	5	スマートシティを推進する人材の育成	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 生成AIはプログラミングを自然言語で行うことができるようになり、ノーコードツールよりもさらに便利になり、使いこなしてもらいたい。 加古川市の市民向けのナレッジベースと生成AIを組み合わせることで、効果的な情報提供の仕組みを構築することができ、市民からの問い合わせに対応することもできると考えている。	「1-3. 欲しい情報がすぐ手に入る効果的な情報発信」に掲げる「アイデアの一例」のうち「AIチャットボットの導入」を実現するなかで、生成AIの活用方法を検討し、市民サービスの向上に努めます。	

「加古川市スマートシティ構想」一部見直し案 コメント一覧

大項目	小項目	基本目標	意見・アイデア	市回答	構想への反映
		用語	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 スマートシティ構想の一部見直しでは、用語を広く一般の方々に理解されやすい表現に変更している。ただし、多くの人々がその言葉を知っているものの、具体的な説明が難しい場合がある。 改善の例として、「QOL」を「生活の質（QOL）」と表現することで、より分かりやすい表現となる。 できるだけ日本語で表現し、分かりやすく説明しながら、徐々にカタカナ語を浸透させていくことが必要と感じる。	「基本目標 1【市民】市民のQOLや利便性を向上するサービス」を 「基本目標 1【市民】市民の生活の質（QOL）や利便性を向上するサービス」に改めます。	文言を修正
		用語	【令和5年度第1回加古川市スマートシティ推進協議会 委員からの意見】 2-①快適に移動できるまち 「オンデマンド交通」「グリーンスローモビリティ」などの用語が用いられているが、広く一般の人々が使用している言葉かどうか、読み手を意識した検討してほしい。	「2-①快適に移動できるまち」に掲げる「基本目標を実現するためのアイデア一例」について 「オンデマンド交通の整備（乗り合いタクシーの予約サービス等）」を 「乗り合いタクシーの予約サービス等（オンデマンド交通）の整備」に改めます。 「グリーンスローモビリティの導入」を 「環境にやさしい低速の小さな移動サービス（グリーンスローモビリティ）の導入」に改めます。	文言を修正